

鹿児島県立埋蔵文化財センター

Kagoshima Prefectural Archaeological Center

まい ぶん

埋文だより

第87号

令和4年2月28日発行



写真は、鹿屋市吾平町^{たちづか}の立塚遺跡^{くだたま}で発見された弥生時代ごろのものと考えられる管玉です。管玉は中心に孔が開けられていて、ここにひもを通して腕飾りや首飾りとして使用されていたと考えられています。

一般的な管玉は、長さ20mm程度、太さ5mm程度の写真中央と左側のようなものが多いですが、右側のものは長さ約60mm、太さ約15mmと3倍ぐらいあります。このような大きさの管玉は非常にめずらしく、国内最大級のものです。

目次

- ・国内最大級の管玉を発見…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2
- ・真年に掘る虎居城…………… 3
- ・篤姫ゆかりの地での発掘調査とワクワク考古楽
- ・現地説明会を開催…………… 4
- ・遺跡を持って帰る!?…………… 5
- ・河コレ遺跡めぐり (④ 山ノ口遺跡) …… 6

発見！ 発掘速報

今年度、県内各地で発掘調査を行っています。埋蔵文化財センターの発掘調査成果の一部を紹介します。

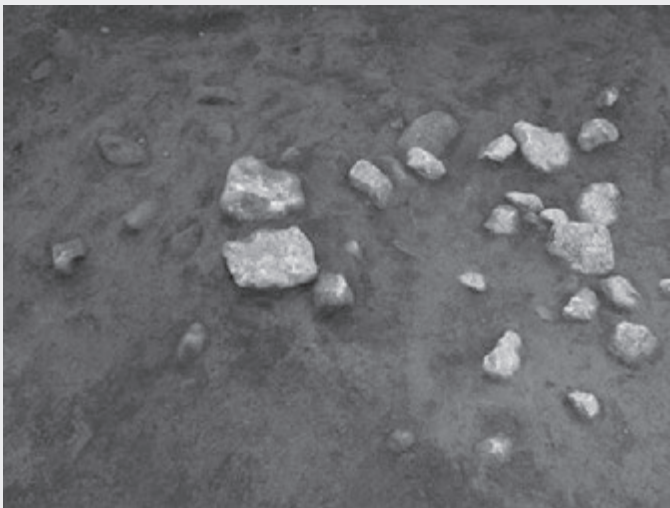
旧石器時代の遺物が出土 いではら ー井手原遺跡ー(さつま町久富木)ー



5月から6月にかけて、県道393号線の拡幅工事に伴い、さつま町久富木にある井手原遺跡の発掘調査を行いました。調査面積は100㎡程度の狭い範囲でしたが、主に旧石器時代終末期(約18,000年前)から縄文時代前期(約6,500年前)の遺構・遺物が発見されました。

旧石器時代の遺物では、黒曜石製の尖頭器やスクレイパー、細石刃、細石刃核が出土しました。

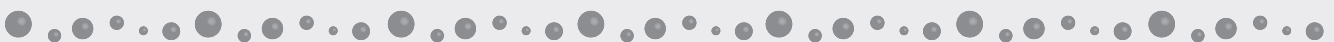
縄文時代では集石4基が検出され、とどろき 轟B式土器・そばた 曾畑式土器、いしさじ 打製石鏟、すり 石匙、いし 磨石が出土しました。



集石検出状況



石匙出土状況



御楼門前での発掘調査 いぬおうものぼぼ ひよけち ー鹿児島城跡(犬追物馬場・火除地)ー(鹿児島市山下町)ー



鹿児島城跡(犬追物馬場・火除地)では、国の鹿児島第3合同庁舎の建設工事に伴って、12月から発掘調査を実施しています。平成29年度にも調査を行いました。今年度はその隣接地の調査を行っています。

鹿児島城の正面にあり、旧庁舎の基礎の間から、明治時代に建てられた鹿児島市立高等小学校と考えられる建物の基礎やそれ以前の整地層が見つかりました。

遺物は、明治時代～昭和にかけての瓦礫のほか、御楼門の瓦の一部も出土しています。今後調査の進行とともに、平成29年度の調査で見つかった江戸時代前半(17世紀)頃の、犬追物馬場に関連する遺構の発見が期待されます。



調査の様子と御楼門

寅年に掘る虎居城

とらいじょうあと
—虎居城跡—(さつま町宮之城虎居)—



さつま町の中心部に近い虎居城跡は、県内でも有数の中世山城として有名です。今年度発掘調査が行われていますが、今日に至るまでの虎居城の歴史や、発掘調査の成果について紹介します。

虎居城の歴史

虎居城は^{おおくま}大前氏により^{こうじ}康治年間(1142年頃)に築城され、^{ほうじ}宝治2(1248)年に^{しぶやしげやす}関東から下向した^{けどういん}渋谷重保(渋谷五兄弟)が^{えいろく}禰答院渋谷氏を名乗り、拠点としたとされています。以降、^{よししげ}永禄9(1566)年に^{よししげ}渋谷良重の代に、^{えいろく}禰答院渋谷氏が滅亡するまでの約300年間^{えいろく}禰答院渋谷氏の居城であったと考えられています。

虎居城のいわれは、「昔、大前氏は虎に臥した形にこの城を執り始めた。よって虎居城と号していた」(『宮之城記』)と文献に書かれています。

^{しまづとしひさ}禰答院渋谷氏の滅亡後は、^{しまづただ}天正8(1580)年に^{しまづただ}島津歳久が領主となります。^{ぶんろく}文禄元(1592)年に^{ぶんろく}歳久が自害した後は、^{ほんごうときひさ}文禄4(1595)年に^{ほんごうときひさ}都城北郷時久が国替で領主となります。

^{けいちよう}北郷氏は^{しまづただ}慶長4(1599)年には^{しまづただ}都城へ戻り、^{しまづただ}慶長5(1600)年、^{しまづただ}島津忠長が^{なが}宮之城の地頭として移り、^{なが}虎居城の対岸の^{そうこうじ}松尾城跡に^{そうこうじ}菩提寺として^{げんな}宗功寺を建立し、^{げんな}宮之城島津家が^{げんな}始まります。^{げんな}徳川幕府から^{げんな}元和元(1615)年に^{げんな}一国一城令が発布された後は、^{げんな}宮之城島津家の^{げんな}家臣の居住地として^{げんな}利用されていたと考えられています。

西暦	和暦	主な出来事
1142ごろ	康治元	薩摩国の国司として下向した大前氏により築城
1248	宝治2	渋谷重保が禰答院渋谷氏を名乗り虎居城を拠点とする
1566	永禄9	禰答院渋谷氏が滅亡
1580	天正8	島津歳久が領主となる
1587	天正15	歳久 秀吉の九州征伐に抵抗
1592	文禄元	島津歳久 自刃
1595	文禄4	都城の北郷時久が領主となる
1599	慶長4	北郷氏都城へ戻る
1599	慶長5	島津忠長が領主となる
1615	元和元	一国一城令により破棄される
		その後宮之城島津家の家臣の居住地として使用
2006	平成18	鹿児島県北部豪雨災害が発生 周辺に浸水被害
2008・9	平成20・21	虎居城跡発掘調査
2011	平成23	分水路が完成
2022	令和3・4	北薩広域公園整備に伴う発掘調査

虎居城の主な出来事

虎居城の発掘調査

平成18年7月に、鹿児島県北部豪雨災害が発生しました。さつま町では家屋の床下・床上浸水が発生し、大きな浸水被害となりました。同年10月に川内川激甚災害対策特別緊急事業が開始されます。分水路建設予定地に虎居城跡の一部が含まれていたことから、平成20・21年度に発掘調査が行われました。その際、^{どろい からぼり こぐち ほったてばしらたものあと}土塁や空堀、虎口、掘立柱建物跡等の遺構や陶磁器、木製品、金属製品等の様々な遺物が出土しました。

本年度は、北薩広域公園整備に伴う橋脚部分の調査を行っています。調査範囲の^{くるわ}曲輪の先端からは、物見台と思われる柱穴が発見されています。遺物は白磁、青磁、^{すりばち いしうす}播鉢、石臼などの遺物が出土しています。今後、調査を進めて、その用途を明らかにしていきたいと考えています。



発掘調査時の虎居城跡の空中写真

木が伐採されている箇所が平成20・21年度の調査区(現在の分水路部分) 現宮之城中学校方向から撮影



本年度調査の様子(石垣の調査)



虎居城跡から出土した金属製品

篤姫ゆかりの地での発掘調査とワクワク考古楽



当センターでは今年度から「^{はいじ}廃寺は語る！よみがえるかごしまの仏教文化」事業を行っています。明治政府が布告したいわゆる「^{しんぶつぶんりれい}神仏分離令」等により、全国で仏教排斥運動（^{はいぶつきしやく}廃仏毀釈）が起きました。特に鹿児島県では徹底的に行われ、当時県内に 1066 か所あったといわれる寺院はすべて破壊され廃寺となってしまう、鹿児島の仏教文化は大きなダメージを受けました。

この事業では、近代化の流れの一方で、失われていった寺院の状況の把握や考古学的な調査を行い、その存在や歴史的な価値をよみがえらせ、その成果を学校での授業などで活用し、子どもたちが地域の歴史を学び、郷土を愛する心を育む機会とします。

今年度の発掘調査は、指宿市岩本に所在する^{こうだいじあと}光台寺跡です。光台寺は、^{てんしょういんあつひめ}天璋院篤姫で有名な今和泉島津家の菩提寺です。明治2（1869）年の廃仏毀釈により打ち壊され廃寺となり、それ以降所在地は不明なままなっていました。しかし、文献調査や指宿市教育委員会の情報提供により、現在の今和泉島津家墓所の近くにあった可能性が浮上しました。そこで10月に1ヶ月間、発掘調査を行いました。

調査の結果、建物跡の発見には至りませんでした。江戸時代に造られたと思われる石垣が確認されたことや当時の瓦や白薩摩、琉球陶器などが出土したことから、付近に光台寺があった可能性が高いことが分かりました。また、10月24日（日）に地域の方々向けに現地公開を開催し、70名が遺構や出土遺物の見学をしました。

光台寺跡の発掘調査と平行して、地元の子どもたちに自分が暮らす地域の歴史や文化を知ってもらうために、遺跡見学やワクワク考古楽出前授業で学校にお伺いさせていただきました。

指宿市立指宿商業高校の生徒のみなさんは、実際に光台寺跡の発掘現場に来て、当時の石垣や発掘作業の様子、出土遺物を見学しました。作業員さんに発掘道具を見せてもらい、実際に掘る体験や質問をしたりする積極的な様子も見られました。

指宿市立今和泉小学校では出前授業を行いました。今和泉小学校の敷地は今和泉島津家の屋敷跡で、当時の井戸や石垣などが今もなお残っていて、当時の様子が身近に感じられます。5・6年生の授業では、光台寺跡で出土した遺物に実際に触れたり当時の絵図からどのような建物だったのか考えたりしました。



指宿商業高校 遺跡見学の様子



今和泉小学校での授業の様子

現地説明会を開催 —^{たちづか}立塚遺跡—（鹿屋市吾平町）—



現場での説明の様子

現在大隅縦貫道建設に伴い、鹿屋市吾平町に所在する立塚遺跡で発掘調査を行っており、11月6日（土）に現地説明会を開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、近隣の方々のみ開催の案内をしました。

当日は肌寒く雨の降る悪天候の中でしたが、50名の方々が見学に訪れてくださり、割れた石皿を入れた土坑や掘立柱建物^{ほったてばしらたものあと}跡、紫コラ（874年の開闢岳噴火時の火山灰）が入った柱穴^{あと}跡、平安時代のころの畑の畝跡^{うねあと}などの遺構や調査で出土した遺物を見学しました。

遺跡を持って帰る!? ～遺構の切り取り・地層の剥ぎ取り～

当センターで実施している発掘調査は、その多くが農地造成や道路建設に伴うものであり、調査が終了するとその遺跡は工事により消滅してしまいます。そのため、発掘調査では遺構や地層を図面や写真にする、「記録保存」を行っています。遺物は出土状況や位置などの記録をした後持ち帰りますが、実物の遺構を保存することはできません。そこで特殊な方法を用いて、切り取ったり剥ぎ取ったりすることで、実物の遺跡の一部を持ち帰って、調査・研究や展示に活用しています。その方法をご紹介します。

遺構の切り取り

立塚遺跡（鹿屋市吾平町）



① 残したい遺構の周りを掘り下げる。



② 周囲に紙タオルを巻いて保護する。



③ 作っておいた木枠を設置し、隙間に発泡ウレタンの液を流し込む。



⑥ 切り取り完了。400kg 以上あったので重機で運搬しました。



⑤ 木枠沿いにさらに掘り下げる。次に横に掘って地面から切り離す。



④ 上にはみ出たウレタンは切り取って、木枠にふたをする。

地層の剥ぎ取り

久保田牧遺跡（鹿屋市吾平町）



① 剥ぎ取りをする地層をできるだけ平面に整える。



② 地層表面に薬剤をていねいに塗る。



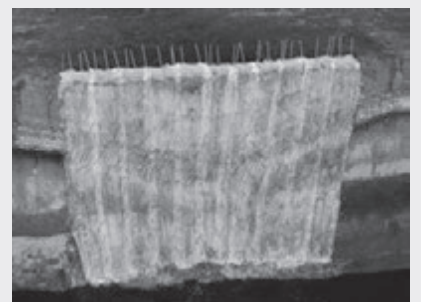
③ ガーゼの上から薬剤を重ね塗りする。ガーゼは固定のために竹串を刺す。



⑥ できあがり。その後持ち帰り仕上げを行う。



⑤ 乾燥したらガーゼを地層から慎重に剥ぎ取る。



④ しばらく乾燥させる。

河コシ遺跡めぐり

河口貞徳氏の歩んだ遺跡

④山ノ口遺跡（錦江町馬場）

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、県考古学会の会長を長年つとめられた故河口貞徳氏の寄贈資料を整理する事業に取り組んでいます。『埋文だより』では、これまで河口氏が取り組んだ代表的な遺跡調査を振り返り、貴重な遺物や発掘当時の様子等を紹介したいと思います。みなさんもぜひ遺跡のあった場所を訪れて、先人の暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか・・・。

山ノ口遺跡は、肝属郡錦江町馬場に所在します。鹿屋方面から国道 269 号線を南下し、旧大根占町の市街地を抜け、国道と海岸線が接近し合う場所に立地しています。現在は鹿児島湾側に石碑が残るのみで、周辺は田畑になっています。

山ノ口遺跡の発見は古く、昭和 33(1958) 年 7 月に砂鉄採掘の際、近くの神川小学校の教頭先生から遺跡発見の情報がもたらされました。このままでは砂鉄採掘により遺跡が破壊されてしまうことから、同年 12 月から昭和 36 年 5 月まで、3 次にわたる発掘調査が行われました。調査開始前に、すでに砂鉄の採掘で遺跡が破壊されていたところもあったようですが、神川中学校の教頭先生が、遺物の出土状況を記録していたり、散逸する前に遺物を回収したことで、一部ではありますが記録保存ができたようです。

山ノ口遺跡は、弥生時代の祭祀を行った遺跡と考えられています。遺構は海岸線に沿って幅 20m、長さ 60m の範囲に、軽石を円形に並べた配石遺構が 9 基検出されました。配石遺構に伴って出土した土器群や岩偶をはじめとした軽石製品は、当時の精神文化を知る上で第一級の資料で、本遺跡の出土品は平成 27 年に県の指定文化財になっています。弥生時代中期（約 2,100 年前）の南九州を代表する土器である山ノ口式土器は、本遺跡を標式としています。

当時、河口氏は鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校で、考古学部の顧問をしていたことから、調査には玉龍高校の考古学部の生徒や近隣の方々が参加していました。また、3 次調査まで実施したと述べましたが、実際の調査期間は 1 次が 11 日間（年末年始を挟むので実際の調査日数はさらに少ない）、2 次・3 次ともに 3 日間という今では考えられないハードスケジュールです。河口氏もそうですが、生徒たちの意欲とエネルギーに脱帽するばかりです。



山ノ口遺跡位置図



山ノ口遺跡出土品



当時の山ノ口遺跡遠景



配石遺構検出状況



山ノ口式土器出土状況

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前 9 時～午後 5 時まで、入館料は無料です。

(現在新型コロナウイルス感染症予防のため、整理作業の見学は休止しています。) 尚、当センターのホームページは、鹿児島県(<https://pref.kagoshima.jp/>)から入るか「上野原縄文の森」で検索してください。

また、フェイスブックは右側の QR コードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第87号

発行日 令和 4 年 2 月 28 日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森 2 番 1 号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp